

令和3年8月23日

# 南の風2021インターハイ女子特集号 I

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

8月15日(日)に行われた、2021北信越インターハイ女子決勝は、桜花学園が大阪薫英女学院を94-65で破り、3大会連続25回目の優勝を飾りました。

決勝をハイライト形式でお伝えします。

立ち上がり桜花が、6番平下、4番朝比奈のシュートで主導権を握る。(8-0でリード)薫英は、4番都野が抑えられる中、5番宮城、8番佐藤、11番島袋がドライブ、3Pで反撃する。

桜花は、中と外の合わせがタイミングよく機能し、6番平下がペリメーターのジャンプシュートを確実に決める。10番横山、5番伊波もドライブ、ジャンプシュートに存在感を示す。

薫英は、5番宮城のドライブ、3Pシュート、11番島袋のペイントでの合わせを決め、桜花に流れを渡さない。

2Qの中盤には、5番宮城と11番島袋の合わせのシュートが決まり一時、薫英が逆転する。(30-28)桜花はあわてず、6番平下、5番伊波、4番朝比奈がシュートを決め、再びリードし桜花が有利にゲームを進める。前半が終わり、桜花45-32薫英。

桜花は平下選手を中心に、伊波選手、横山選手、朝比奈選手のシュートが安定していました。特に平下選手は前半だけで、2Pシュート69%、3Pシュートは35%の確率を残しました。この数字の陰には、ペイントで常に体を張ってディフェンスを引き付けて、シューターのヘルプに行きにくくした、朝比奈選手の存在があったと思います。何度も何度も献身的にポストでポジション取りをして、ディフェンスにヘルプさせない姿は、チームオフェンスの目に見えないアシストになったことは間違いありません。

薫英は身長で桜花に劣りますが、果敢なドライブ、機を見て放つ3Pシュート、島袋選手のペイントでの合わせは、たいへん効果的で精度も安定していました。特に島袋選手は1年生ながら、身体能力が高くリバウンドの奪取率もチーム1でした。

後半に入っても桜花の有利は変わらない。平下はコンスタントにシュートを決め、朝比奈は前を抑えられると、裏でループパスを受け得点する。横山、7番の前田も決めるべきシュートは確実に決める。

何とか打開したい薫英は、宮城がドライブでペイントを攻める。3Pシュートも沈める。また都野の3Pシュートも決まり追いつがる。シュートの後にオールコートプレスでボール運びに圧力を加え、パスカットやスローインの5秒バイオレーションを誘い、流れをつかもうとする。

桜花はすかさずタイムアウトを取り、流れを切る。直後ボールをウイークサイドに展開して、ボールを運び、朝比奈のドライブで得点して流れを引き戻す。

その後落ち着いてボールシェアし、ディフェンスに的を絞らせなかった桜花が逃げ切りタイムアップとなった。桜花学園94-65大阪薫英女学院。

差が開きましたが、薫英のスピードを生かした攻めや、インテンシティーの高いディフェンスは高さのハンデを感じさせない見事なものでした。2年生の都野はキャプテンとして1回戦からチームをまとめるとともに、準決勝の岐阜女子戦での活躍が光りました。また準決勝から決勝まで、スターターの5人は交代なしで40分コートに立ち、攻守にわたってチームに貢献しました。